

3 日本橋～千住宿

東京都台東区 東京都荒川区  
浅草～泪橋

( 歩行距離 2307m 30分 )

歩く地図でたどる日光街道

http://nikko-kaido.jp/  
JZE00512@nifty.ne.jp

②⑤明治通り 石神井用水が三ノ輪で分かれて「思川」(二番用水)となり、分かれた用水は「山谷堀」となって隅田川に注いだ。今ではいづれも埋め立てられ道路となっている。明治通りを東に行くと、隅田川でもっとも古い「橋場の渡し」があり、在原業平が渡って下総国へ向かった。「史跡平賀源内先生之墓」と刻まれた平賀源内の墓が橋場2-22-2にある。総泉寺が戦災後、移転したのでお墓だけが残った。「もと鏡池の辺に在りたる化地蔵あり」2m余り大きな地蔵。

②③衣紋坂 日本堤の土手から吉原大門までに襟を直し、衣類を整えた。新吉原は明暦3年(1657)日本橋葺屋町から移転した。元吉原に対して新吉原と呼ばれ、また、北里、北郭、北州などとも呼ばれた。二町四方は郭といわれ、高い堀で囲み、外周には幅2mほどのお歯黒溝があった。春慶院 吉原の名妓二代目高尾太夫は万治高尾、仙台高尾と呼ばれ、万治3年(1660年)伊達騒動で伊達綱宗との恋で綱宗に斬られた遊女の墓がある。「為転誉妙身信女」の戒名が刻まれている。「寒風にもろくもつくる紅葉かな」の辞世の句がある。

紙洗橋 浅草紙の紙をほぐして寝かせることを冷やかしいとった。道路沿いの女郎がお兄さんちょっと寄っていかないかと声をかけたのが冷やかしの語源となった。

日本堤 「日本堤 聖天町より箕輪に至る。この間凡そ拾三町程の長堤なり。(俗に八丁縄手といふ)元和6年庚申の歳(1620)、台名に依りて荒川水除の為にこれを築かせらる(江)山谷堀の両側の土手で、隅田川水除のために築かれた。およそ13町(1.4km)の堤。隅田川から吉原大門まで八丁(800m)だったので八丁縄手と呼ばれた。土手には100軒以上のよしず張りの「編笠茶屋」が並んでいた。

正法寺 日本橋通油町の地本類(草紙類)の出版の地本問屋の篤屋重三郎(つたやじゅつさぶろう略して篤重)。吉原細見(吉原町の小冊子)の小売から出発し、歌麿の大首絵や写楽の作品を世に出した。

浅草神社 推古天皇の時代(636年)、漁師の檜前(ひのくま)浜成、竹成網の網にかかった観音像を郷土の文化人士師真中知(はじのあたいなかとも)が浅草神社に奉安。

姥ヶ池 昔この辺は野原で一軒家に姥と娘が住んでいた。旅人が宿を乞うと上の枕に寝かせ、夜中に上から石を落として殺し金品を奪っていたが、ある時、1人旅の稚児が宿を借りた。老婆は躊躇することなく、寝床に書いた稚児の頭を石で叩き割った。しかし寝床の中の亡骸をよく見ると、それは自分の娘だった。悲しんだ姥はこの池に身を投げた死んでしまったという。

被官稲荷神社 猿若町「猿若町一丁目 旧峡田(はけた)領に係る。寛文元年(1661)小出信濃守の別邸となり、天保13年(1842)之を幕府に入る。6月堺町の劇場を移し、俳優始祖の名を取りて今名を加へ、通じて三町となす」天保の改革で江戸市中に点在した芝居小屋をここに集め、歌舞伎の創始者・猿若(中村)勘三郎にちなんで猿若町と名付けられた。表通りには芝居茶屋が並び賑わった。市村座跡碑(浅草6-18-13)、守田座跡碑(浅草6-26-11)がある。

浅草神社 推古天皇の時代(636年)、漁師の檜前(ひのくま)浜成、竹成網の網にかかった観音像を郷土の文化人士師真中知(はじのあたいなかとも)が浅草神社に奉安。

馬道通り 新吉原に通う武士が馬で往来。

浅草2 287m 4分  
浅草3 332m 4分  
浅草4 375m 5分  
浅草5 410m 5分  
浅草6 284m 4分  
浅草7 284m 4分  
浅草8 89m 1分  
浅草9 201m 3分  
浅草10 201m 3分  
浅草11 201m 3分  
浅草12 201m 3分  
浅草13 201m 3分  
浅草14 201m 3分  
浅草15 201m 3分  
浅草16 201m 3分  
浅草17 201m 3分  
浅草18 201m 3分  
浅草19 201m 3分  
浅草20 201m 3分  
浅草21 201m 3分  
浅草22 201m 3分  
浅草23 201m 3分  
浅草24 201m 3分  
浅草25 201m 3分  
浅草26 201m 3分  
浅草27 201m 3分  
浅草28 201m 3分  
浅草29 201m 3分  
浅草30 201m 3分



②⑥泪橋 江戸時代、小塚原と鈴ヶ森はともに犯罪者の刑場であった。小塚原の刑場は、日光街道を通り、思川に架かる泪橋で、この世との最後の別れの場となり、家族や身内別れの場となり、橋の上で涙を流したことから「泪橋」と付けられた。一方、鈴ヶ森は南の刑場として設置された。鈴ヶ森刑場の周辺は、かつて海岸沿いのさびれた地であった。鈴ヶ森の刑場に向かうには、近くの立会川にかかる「泪橋」を渡った。

②④玉姫稲荷神社 「標茅ヶ原(しめ姫時多)の辺を呼ぶ。昔時多(玉姫時多)の水鶏(くいな)がかりしと云ふ(案)」。しかし標茅ヶ原はもっと東、隅田川の近くに。玉姫稲荷神社(標茅ヶ原) 元龜2年(1571)創建と伝う。「三谷明神」と尊称し、除災を御神徳とし、氏子崇敬者に尊崇されている。

②⑦妙龜塚 「妙龜塚 梅若丸の母公妙龜尼の墳墓なりといひつた。小高きところに草堂を建てて妙龜大明神と称せり」(江戸名所図会) 謡曲の『隅田川』で、人買いにさらわれ、墨田川畔で12歳で死んだ梅若丸を葬ったのは向島堤通り2丁目の木母寺(もくぼじ)の梅若塚。梅若の死をここで知った梅若の母親は、総泉寺の尼僧となり妙龜(みょうき)尼と号した。我が子を忘れずに鏡ヶ池に身を投げ、ここに葬られた。

②⑧東禅寺 江戸の各街道入口に立てられた六地藏の一つがある。宝永7年(1710)建立。東海道品川宿の品川寺に次ぐ第二番の地藏である。

②⑨福寿院 儒者安藤東野(とうや)の墓がある。

②⑩采女塚 吉原堺町雁金(かりがね)屋の遊女采女は、ある僧が恋死したのを悲しんで鏡ヶ池に身を投げた。

②⑪長昌寺 「弘安5年(1282)浅草金龜山の別当寂海、日蓮宗の日常と此に法輪し、雌伏して日蓮宗に改め、日蓮の弟子となり一寺を建しもの本寺なり」(江戸案内)

待乳山聖天 「この所、今は形ばかりの丘陵(おか)なれど、東の方を眺望すれば墨田河の流れは長堤に傍(そ)うて溶々たり近くは葛飾の村落、遠くは国府台の翠巒(すいらん)迄、ともに一望に入り、風色尤も幽趣あり(江)。隅田川べりの小高い丘(待乳山)にあり、周囲が見渡せ眺めがよく、江戸時代には文人墨客がこの地を訪れている。本尊の歡喜天は商売繁昌(金儲けを意味する巾着)、夫婦和合(性のもたらす豊饒を意味する二股大根)1月「大根まつり」がある。「元(も)と真土山(まつちやま)と書し、金龜山と号し、浅草寺末本龜院の境内に在る小丘也。俗に聖天山と呼ばれる。戸田茂睡の歌碑「あはれとは夕こえてゆく人も見よ、まつちの山にこのすことのは」がある。池波正太郎生誕の地碑がある。スカイツリーの眺望良好。

待乳山聖天 幕末の志士・沖田総司の終焉の地とも言われている。

山谷堀 吉原への遊客はここ隅田川から猪舟で水門から山谷堀に入り、今戸橋、聖天橋、山谷橋、正法寺橋、山谷堀橋、紙洗橋、地方橋、日本堤橋をくぐって吉原へ行った。広重の今戸橋の絵を見ると右側に料亭、川には猪舟が行き交い芸妓が三味線を奏でている。山谷堀は石神井川を源にし、三ノ輪で明治通りの思川と分かれ、吉原大門を経て隅田川に流れていた。

浅草追分 天正18年(1590)8月1日家康が江戸入りし、文祿3年(1594)千住大橋が架けられるまで、ここから北進し、今戸、橋場を通して北へ進んでいた。千住大橋ができてからも、直進する古奥州道沿いには多くの寺院があり、こちらを利用する人も多かった。水戸街道は江戸時代北千住が起点だった。

